

救急車の適正利用を



飯塚地区消防組合 桂川消防署

小野 竜太 救急係長

1分を争う救命活動に必要不可欠な救急車。新聞やテレビなどでも取り上げられており、救急車をタクシー代わりに使用するなどの不適正な利用が問題となっています。実際に救命活動に携わる救命士さんにお話を聞きました。

「しゃっくりが止まらない」
「風邪でだるい」
「診察の予約をしている病院へ連れていって」
「腰が痛いので、トイレまで連れていって」
これらは、飯塚地区消防本部で実際にあった119番の通報内容です。
全国の救急出動件数は、10年前と比較して約30%増加しています。高齢化社会が進む中、今後ますます増加すると推計されています。

飯塚地区消防本部の救急出動件数をみても、10年前と比べ約1,000件前後も増加しています。ところが、増え続ける救急出動に対応する救急車台数は、10年前と変わらず6台です。そのため、救急車すべてが出払ってしまう「救急空白時間」がたびたび発生しています。その結果、現場に到着するまでの時間が延びてしまい、救うべき命が救えない事態を招いています。

全搬送者のうち、結果として入院の必要がなかった割合は約40%を占め、救急利用者のマナーが問われています。救急車は緊急性が高い人のためのもので、119番を必要とするのは、本当に救急車が必要なのか、一度考えてください。ただし、本当に救急車が必要だと思つたときは、ためらわずに呼んでください。

こんなときはすぐに119番

- 意識がない
 - 急な胸の痛み、呼吸困難
 - 経験したことのない激しい頭痛
 - 大量出血や広範囲のやけど
 - 手足が動きにくい、ろれつが回らない など
- 救急車を呼ぶべきか迷った際は、消防署にお問い合わせください。
限りある救急資源である救急車の適正利用について、皆さまのご協力をお願いします。

救急通報Q & A /

Q1 119番通報のとき何を伝えたらいい？

119番に電話をする際は、急を要する場面が多く、慌てて色々なことを話してしまいがちです。オペレーターが1点1点問いかけますので、落ち着いて教えてください。

- ①火事か救急か
- ②場所はどこか
- ③病気が事故か
- ④病気やけがの様子
- ⑤患者の年齢や性別
- ⑥通報者の名前と電話番号

Q2 サイレンを鳴らさず来てほしいのですが…

消防車や救急車は、緊急車両の条件として、赤色灯を点け、サイレンを鳴らして走行するように道路交通法で義務付けられていますので、ご理解いただきますようお願いいたします。



Q3 ○○病院に搬送してほしいんですが…

救急隊は、患者の病状によって、搬送先の病院を判断します。「○○病院がわかりつけの病院だから」などの理由による搬送先の指定はできません。また、急を要さない病状のときなど、場合によっては診察を待つていただくこともありますので、救急隊や搬送先の病院の判断に従ってください。

Q4 間違えて119番しちゃったんですが…

間違い電話や小さなお子さんのいたずらなどで119番につながってしまっても、何も言わずに切らず、「間違えました」と一言伝えてください。何も応答がないと、電話口で通報者が倒れている場合などの状況が考えられ、呼び出しなどで確認する必要があります。